しんまちだよりネットワーク版

府中市では「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」の実現のため、地域のネットワークづくりを行っています。地域の皆さんがいつまでも住み慣れた地域で暮らしていくためにどうしたらいいのか、ご自身で取り組めることは何なのか、を考えるきっかけにしていただければと思います。

地域包括ケアシステムとは

「地域包括支援センター」という名称、どういう意味かしらという方、多いのではないでしょうか。地域包括支援センターは少子高齢化により起こる問題に対し、地域住民の介護や医療に関する相談窓口として平成 18 年に創設されました。地域包括ケアシステムという言葉はこの頃から使われるようになりました。

年々、介護サービスを利用する人は着実に増加しています。団塊の世代の約 800 万人が 75 歳以上になる 2025 年以降は、高齢者の医療や介護の需要がさらに増加することは必至です。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい人生を全うできる社会を目指して、整備が進められているのが、「地域の包括的な支援・サービス提供体制のしくみ≒地域包括ケアシステム」です。

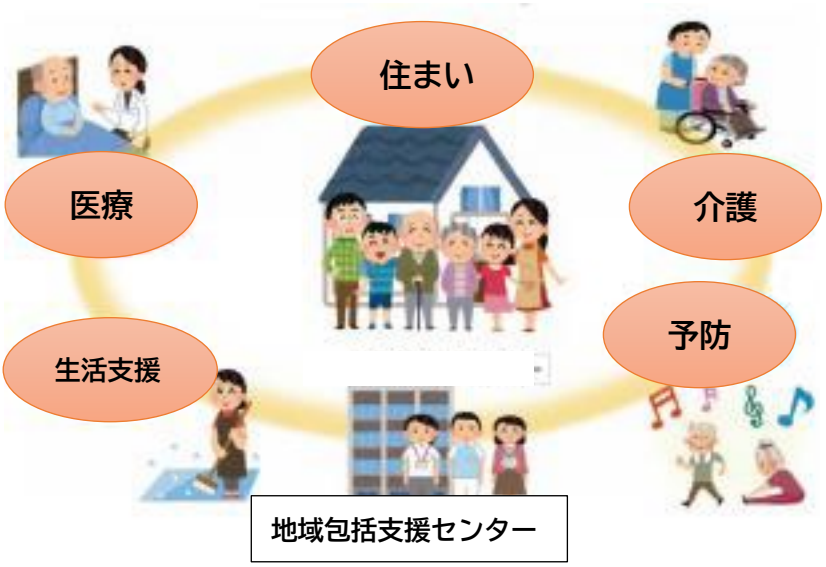
地域包括ケアシステムの概要

毎回、この紙面の冒頭に「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」と書いていますが、可能な限り住み慣れた地域や自宅で日常生活を送ることを望む人が多いでしょう。そこで「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」の５つのサービスを地域のなかで一体的に提供できるケア体制を構築しようというのが、地域包括ケアシステムです。ここでいう「地域」とは日常生活圏域を指し、おおむね 30 分以内に駆けつけられる場所を想定しています。

日本のすべての市町村が地域の実情や特性に合わせ、このシステムの構築に日々取り組んでいるところです。都市部と過疎地では取り組みは全く違います。

高齢者の住居が自宅であるか施設であるかを問わず、健康に関わる安心・安全なサービスを 24 時間毎日利用できることが目的です。

次回は府中市の「地域包括ケアシステム」の現状をご紹介したいと思います。



地域包括支援センターしんまち　TEL042-340-5060　FAX042-340-5622
e-mail : sinmachi-kg@t-kenseikai.jp　　ネットワーク担当　野中

2021 年 4 月 1 日発行